




図 9.8-4(5) 保全すべき種の確認位置 (第6回猛禽類調査: 令和元年7月)

表 9.8-12(1) 保全すべき種の生態及び確認状況（猛禽類）

科名	タカ科			
種名	ツミ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	—		
	埼玉県	全県	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	
	大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）		
	中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）		
分布状況	留鳥または夏鳥として北海道から南西諸島までに分布。			確認個体
形態・生息場所	<p>【形態】全長オス 27cm、メス 30cm、翼開長 51～63cm。オスはヒヨドリくらいの大きさで頭部から上面は暗灰青色。下面はオレンジ色。メスは少し大きく、上面が灰黒色で下面は白色で黒い横縞がある。</p> <p>【主な生息環境】平地から山地の林、市街地の公園の林等で繁殖。</p>			 <p>確認環境</p>
県内での生息状況	低地帯から低山帯に留鳥として生息し、繁殖する。現在は大きな林よりも市街地の緑地や公園の林等の小さな緑地で営巣するものが多い。個体数は増加傾向にあるが、生息環境は必ずしも良くなっていない。春秋の渡りの時期には、通過個体が県内各地で記録される。			
現地確認状況	第 3 回：対象事業実施区域内で 1 例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった。			


資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-12(2) 保全すべき種の生態及び確認状況（猛禽類）

科名	タカ科						
種名	ハイタカ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	準絶滅危惧					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>情報不足（繁殖） 準絶滅危惧 2 型（越冬）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>絶滅危惧 II 類（越冬）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>絶滅危惧 II 類（越冬）</td> </tr> </table>		全県	情報不足（繁殖） 準絶滅危惧 2 型（越冬）	大宮台地	絶滅危惧 II 類（越冬）
全県	情報不足（繁殖） 準絶滅危惧 2 型（越冬）						
大宮台地	絶滅危惧 II 類（越冬）						
中川・加須低地	絶滅危惧 II 類（越冬）						
分布状況	北海道と本州の一部で繁殖し、冬季は全国に冬鳥として渡来する。		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】全長オス 30～32.5cm、メス 37～40cm、翼開長 60.5～79cm。オスの頭上から上面は暗青灰色。下面は白色で橙褐色の横縞がある。メスは上面が褐色味を帯びる。</p> <p>【主な生息環境】ツミよりやや標高の高い山地の林で繁殖し、冬季は平地から山地の林、農耕地、河川敷等に生息する。</p>						
県内での生息状況	冬季は平地の林、農耕地、河川敷等に生息するが個体数は多くない。現在はやや増加傾向にある。県内でも夏季に山地に生息するが、繁殖の状況についてはよくわかっていない。春秋の渡りの時期には通過と思われる個体が県内各地で記録される。						
現地確認状況	第 2 回：対象事業実施区域内で 1 例、対象事業実施区域外で 1 例、計 1 例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった。						



資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-12(3) 保全すべき種の生態及び確認状況（猛禽類）

科名	タカ科			
種名	サンバ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	絶滅危惧Ⅱ類		
	埼玉県	全県		絶滅危惧ⅠA類（繁殖）
	大宮台地	絶滅（繁殖）		
	中川・加須低地	絶滅（繁殖）		
分布状況	夏鳥として、本州、四国、九州に渡来する。南西諸島では越冬するものもある。			確認个体
形態・生息場所	<p>【形態】全長オス 47cm、メス 51cm、翼開長 105～115cm。頭上から上面は褐色。喉には黒い縦線がある。下面は白く茶褐色の横縞がある。幼鳥では上面が暗色で下面には縦斑がある。</p> <p>【主な生息環境】低山の林で繁殖し、林縁や農耕地、山林などでカエル、トカゲ、ヘビ、ネズミ、鳥類などを捕食する。</p>			
県内での生息状況	かつては、低地帯、台地・丘陵帯、低山帯の各地に夏鳥として渡来し繁殖していたが、現在は県内での繁殖情報が極めて少なくなっている。台地・丘陵帯で著しく減少している理由として、谷津田の耕作放棄や手入れ不足による生息環境悪化のため、本種の餌となるカエルやヘビ等が減少したことが原因の一つとして考えられる。春秋の渡りの時期には通過個体が県内各地で記録されている。			
現地確認状況	第2回：対象事業実施区域内で2例、対象事業実施区域外で6例、計6例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった。渡り途中の個体だと思われる。			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

表 9.8-12(4) 保全すべき種の生態及び確認状況（猛禽類）

科名	ハヤブサ科		
種名	ハヤブサ		
重要性	文化財	—	
	保存法	国内	
	環境省	絶滅危惧Ⅱ類	
埼玉県	全県	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）	
	大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）	
	中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）	
分布状況	留鳥として、北海道から九州で繁殖し、冬季は冬鳥として全国に渡来する。		確認個体
形態・生息場所	<p>【形態】全長オス 38～45cm、メス 46～51cm、翼開長 84～120cm。上面は青灰黒色で下面は白く黒褐色の横縞がある。頬に特徴的なひげ状の黒斑がある。幼鳥には、上面が褐色で、下面には黒い縦斑がある。</p> <p>【主な生息環境】平地から山地の海岸、河口、河川敷、湖沼、農耕地等に生息する。元来、海岸の断崖や岸壁の岩棚等で繁殖していたが、現在は市街地のビルや橋脚等の人工構造物に営巣する例が増加している。</p>		
県内での生息状況	県内には冬鳥として渡来し、平地から山地の河川敷、農耕地、湖沼、ダム湖等に生息する。現在はやや増加傾向にあり、夏季の観察記録もある。県内でも人工構造物に営巣し、繁殖する兆候がある。		確認環境
現地確認状況	第1回：対象事業実施区域内で2例、対象事業実施区域外で2例、計2例が確認された。繁殖を示す行動はみられなかった。		

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

オ 爬虫類・両生類

(ア) 確認種

現地調査の結果、爬虫類・両生類は表 9.8-13 に示す 3 目 7 科 11 種が確認された。

調査範囲の環境は、主に市街地等であり、綾瀬川沿いに草地や水田環境が存在する。また、植栽地等の樹林環境がパッチ状に分布する。

市街地等ではヤモリ等、綾瀬川やその周辺の水田環境ではトウキョウダルマガエル、クサガメ等、草地環境ではカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ等が確認された。

表 9.8-13 確認種一覧（爬虫類・両生類）

No.	目名	科名	種名	調査範囲								
				対象事業実施区域内				対象事業実施区域外				
				夏季	秋季	早春季	春季	夏季	秋季	早春季	春季	
1	カメ	イシガメ	クサガメ					●			●	
2			アカミミガメ					●		●	●	
3	トカゲ	ヤモリ	ヤモリ	●	●	●	●				●	
4			カナヘビ				●	●	●		●	
5			ヘビ							●	●	
6			アオダイショウ					●			●	
7	カエル	ヒキガエル	アズマヒキガエル				●			●		
8			アマガエル				●	●	●	●	●	
9			アカガエル	トウキョウダルマガエル					●	●		●
10			ヌマガエル								●	●
11			ウシガエル						●	●	●	●
計	3目	7科	11種	1種	1種	1種	4種	7種	4種	6種	10種	
				4種				11種				

注) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 -本邦産野生動植物の種の現状- (脊椎動物編)」(平成 5 年、環境庁) に従った。

(イ) 保全すべき種

現地調査の結果、保全すべき種は、アズマヒキガエル、トウキョウダルマガエル、カナヘビ、シマヘビ及びアオダイショウの5種が確認された。保全すべき種一覧は表9.8-14、調査季節別の保全すべき種の確認位置は図9.8-5(1)～(4)、保全すべき種の生態及び確認状況は表9.8-15(1)～(5)に示すとおりである。

表 9.8-14 保全すべき種一覧（爬虫類・両生類）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域		保全すべき種の選定基準								
						文化財保護法	種の保存法	埼玉県文化財	埼玉県保護条例	環境省R.L.2019	埼玉県RDB 2018			
				内	外						大宮台地	中川・加須低地	全県	
1	トカゲ	カナヘビ	カナヘビ	●	●							NT2	NT2	RT
2		ヘビ	シマヘビ		●							VU	VU	VU
3			アオダイショウ		●								NT1	NT2
4	カエル	ヒキガエル	アズマヒキガエル	●	●							NT1	NT1	NT1
5		アカガエル	トウキョウダルマガエル		●							NT	VU	NT1
計	2目	4科	5種	2種	5種	0種	0種	0種	0種	1種		5種	5種	5種
											5種			

注 1) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 - 本邦産野生動物の種の現状 - (脊椎動物編)」(平成5年、環境庁)に従った。

2) 保全すべき種の選定基準となる法令・文献及び評価区分は前掲表9.8-5のとおりである。

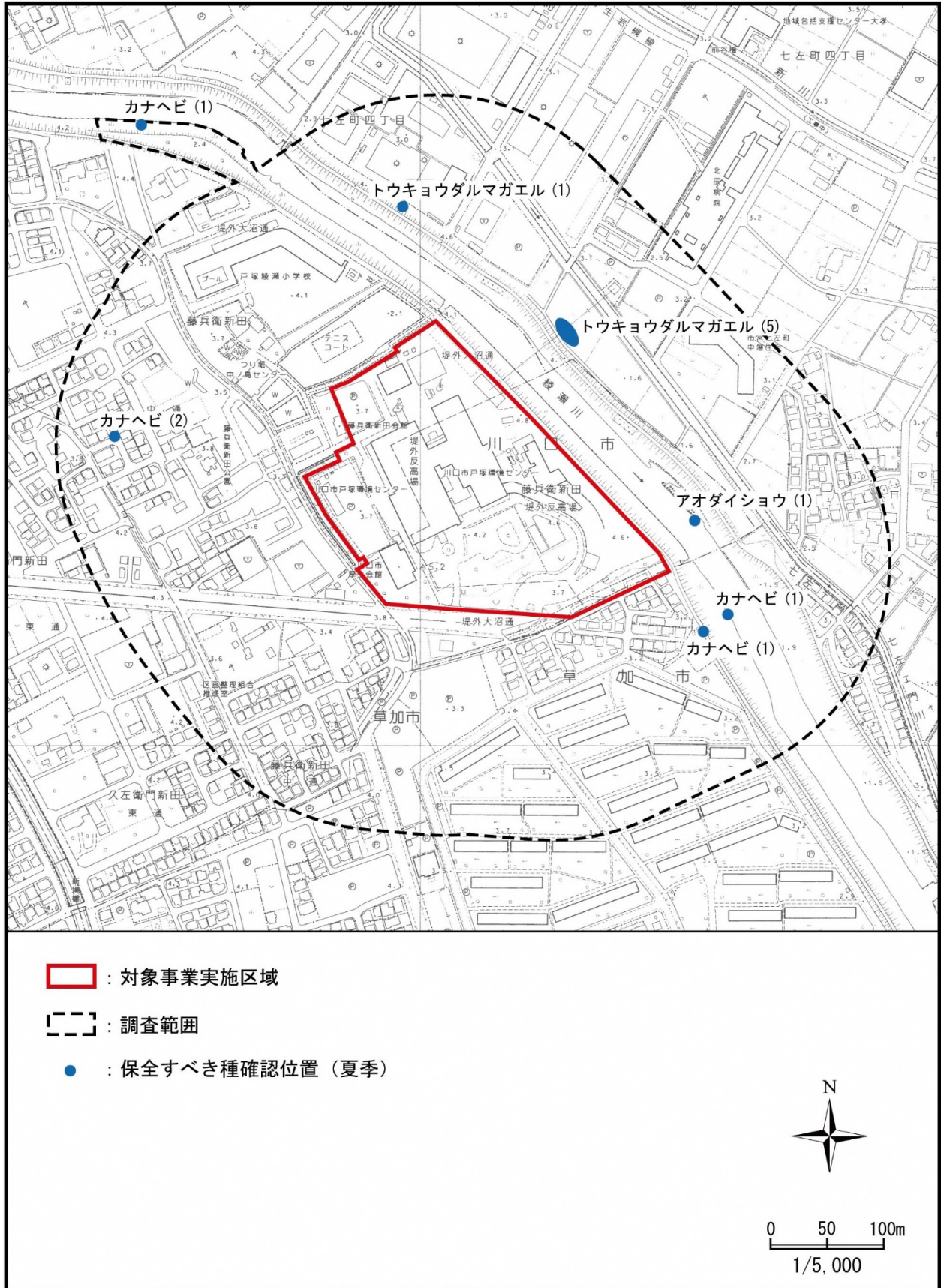
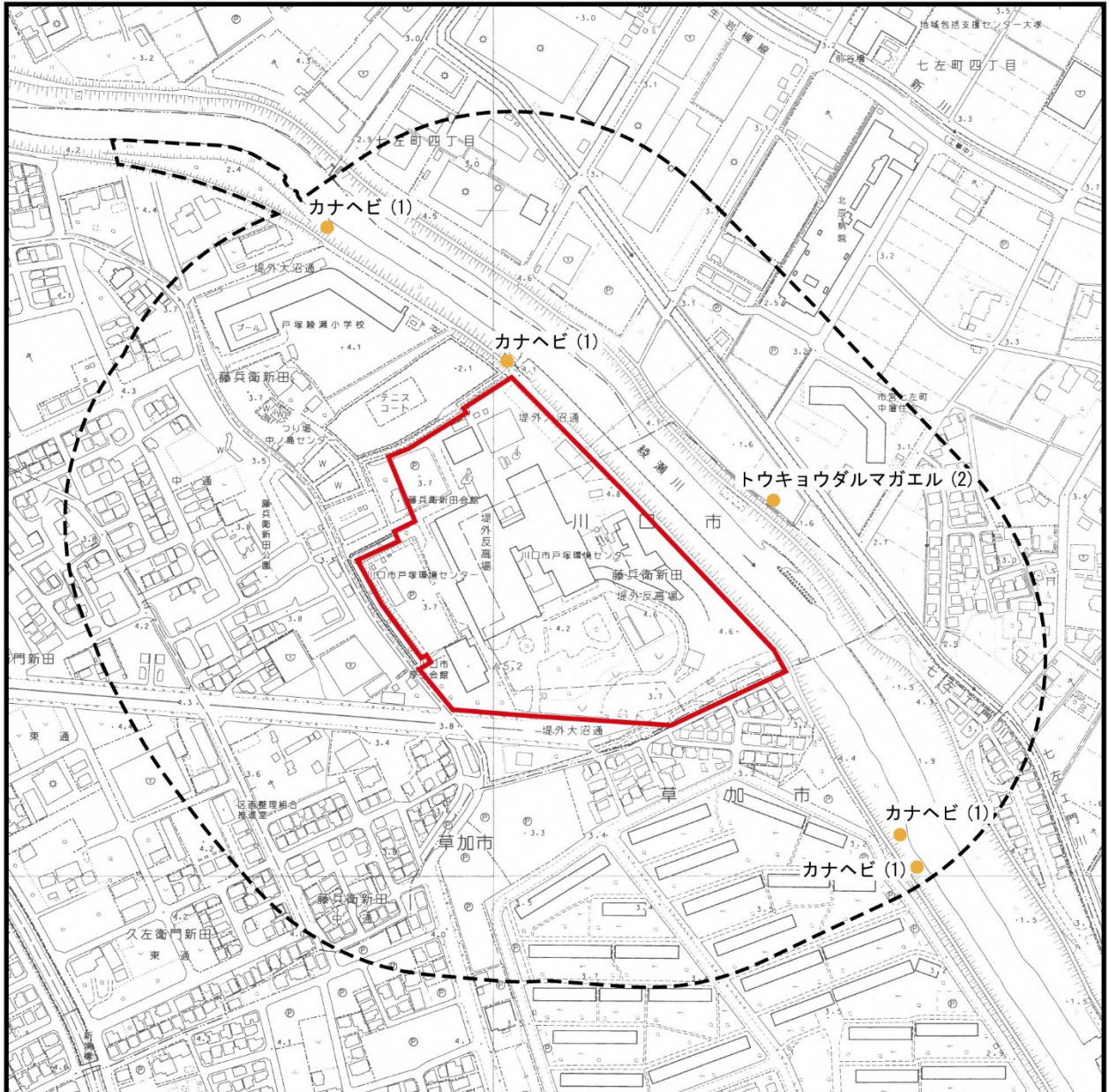
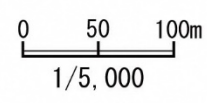


図 9.8-5(1) 保全すべき種の確認位置（爬虫類・両生類：夏季）

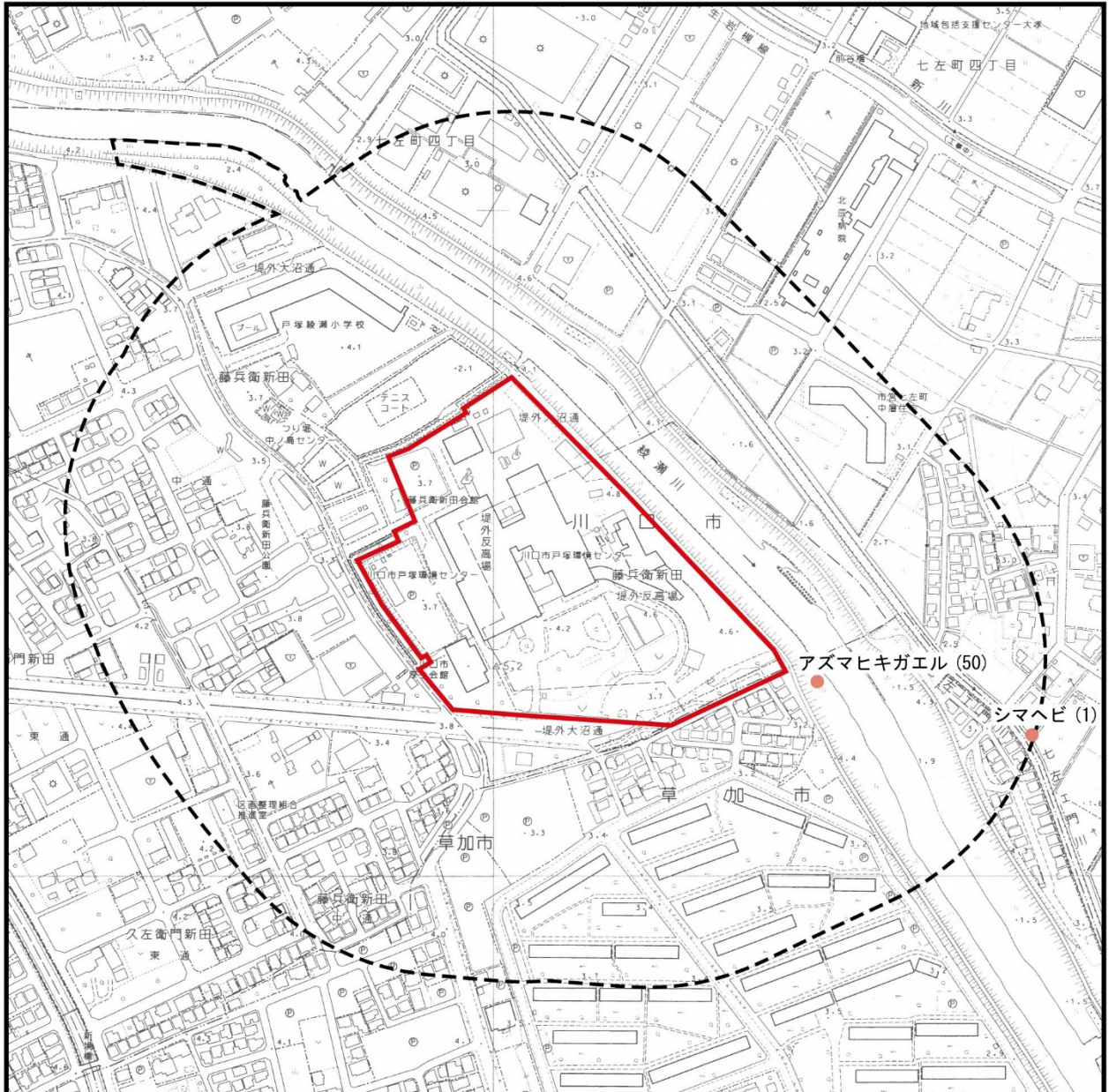


- : 対象事業実施区域
- : 調査範囲
- : 保全すべき種確認位置 (秋季)

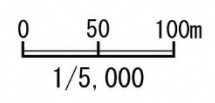


注) () 内の数字は、確認例数を示す。

図 9.8-5(2) 保全すべき種の確認位置 (爬虫類・両生類：秋季)



- : 対象事業実施区域
- : 調査範囲
- : 保全すべき種確認位置（早春季）



注) () 内の数字は、確認例数を示す。

図 9.8-5(3) 保全すべき種の確認位置（爬虫類・両生類：早春季）